

横田基地問題を考える会

ニュース NO. 22

連絡先 電話&FAX 0428-22-6273
ホームページ アドレス
yokota-peace.sunnyday.jp

オスプレイの飛来に 怒りをもつて 強く抗議！

オスプレイ
横田基地に
二度も飛来！

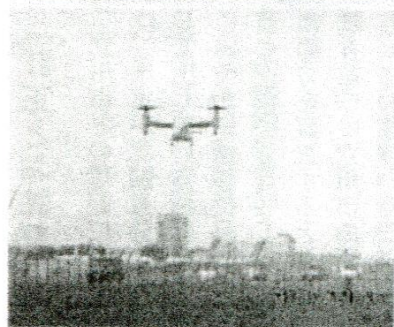
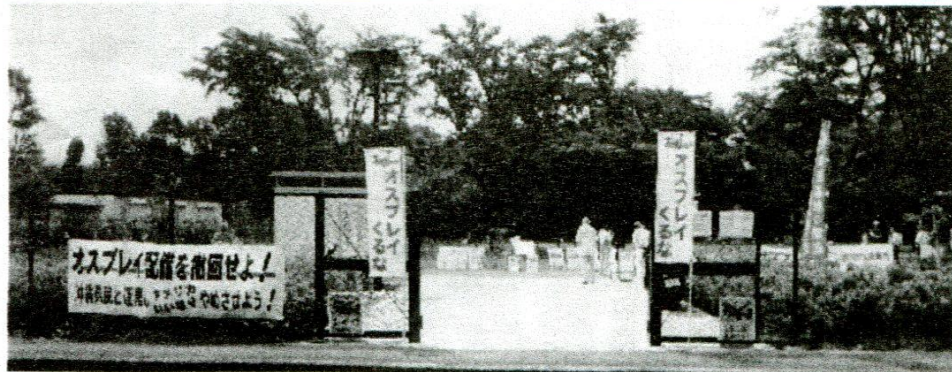
周辺住民や周辺自治体の反対の意見を無視して、7月19日に最初に飛来し

てから、下記の通り3度飛来しました。7月19日に、380人が集まり、近くの福東ともだち公園で「欠陥オスプレイは横田に来るな！」と怒りの抗議集会を開きました。集会では、呼びかけ団体の「横田基地の撤去を求める西多摩の会」「横田基地問題を考える会」「第二次新横田基地公害訴訟原告団」「第九次横田基地公害訴訟原告団」の代表がそれぞれ「地元の住民と自治体の反対を無視した米軍の行動に、怒りをこめて闘いの輪を広げよう」などと挨拶しました。

東京平和委員会、東京地評、新婦人東京都本部、社民党、日本共産党、福生生活者ネットも連帯の決意表明をしました。

この日は、従来から、オスプレイの飛来・配備に反対の要請を行ってきた

た横田基地周辺市町基地対策連絡会の幹事を務める清水庄平・立川市長が「騒音や部品落下などで住民に不安が続いている。要請の通り対応されるよう国に強く求める」との



写真は7月21日の抗議行動(上)と、飛来するオスプレイ(左)

- 談話を発表しました。
- 抗議集会は再度飛来した8月31日にも、150名の参加で行われました。
- 〈オスプレイの飛来した日〉
- 7月19日 2機 飛来と出発
 - 7月21日 2機 飛来と出発
 - 8月29日 2機 飛来
 - 8月31日 1機 訓練
 - 1機は新聞記者を乗せて飛行
 - 9月2日 2機 出発
 - 9月5日 2機 飛来
 - 9月6日・7日 日米友好祭で展示
 - 9月8日 2機 出発

米軍横田基地友好祭 見学記

T・Oさん
(昭島・緑町在住)

一昨日(9月7日)雨の中、横田基地の友好祭に行つて来ました。30数年前に行つて以来で、規模の大きさといい、展示の内容といい、あまりに様変わりしてつてびっくりしました。

広いイベント・フードブースを抜けると米軍、自衛隊の軍用機がズラリと展示されていて、友好祭と言うより、米軍、自衛隊の宣伝活動だと思いました。

高校生、大学生ぐらいの若い人が沢山来ているのに、またまたびっくり。若い女性も多かったです。以前は家族連れがほとんどだったような気がします。あとは、地元の買物目的のお婆様、お爺様、家族連れ、いかにもオタクっぽい中高年の男性に、危なそうなお兄ちゃん。昨年、経費節減で開催されなかったとか。今年は

日本政府から、どのくらいの予算が出ているのか、大々的なイベントでした。

オスプレイの中

も公開されていて長い列ができていました。近く(福生公園)でオスプレイ反対の集会もあつたようですが、行けませんでした。

まるでお祭り騒ぎで、雨が上がった午後からは、入場者が続々詰めかけていま



した。これが現実なのでね！複雑な思いで帰ってきました。

(この2日間で入場者は14万人を超えたとのことでした。)

米軍ホームページより)

オスプレイは アメリカに帰れ！

8月24日立川駅

北口デッキで

宣伝行動を行う

8月24日、立川駅北口でオスプレイの飛来と訓練に抗議し、「オスプレイはアメリカに帰れ」の宣伝行動をしました。米海兵隊のオスプレイが7月に横田基地に飛来し、8月19日から自衛隊の東富士・北富士演習場で訓練するという重大事態の中の行動で、16人が参加しました。ピラの入ったティッシュの受取は男女の別なく良く、ティッシュからピラを抜き歩きながら読んでいる人も少なくありませんでした。



立川市だけでなく周辺地域の人が沢山通る立川駅北口での宣伝行動はこれで今年4回目となります。

首都圏でのオスプレイの飛来・訓練が実際始まったという事で、人々の不安が高まっています。しかし大手メディアの報道姿勢も影響し、オスプレイは「抑止力」と考える人も少なくありません。今後は多くの人に参加してもらい、内容も考えながら宣伝行動を強めていきたいものです。

(後藤)

訂正とお詫び

立川市との懇談で、立川市は、米軍が北関東防衛局を通じて出している情報は各会派に速やかに情報提供をしているとの指摘を受けました。誤った部分を訂正するとともに、読者並びに立川市の関係者の方々にお詫びいたします。

2014年5月15日付
ニュースNo.21号の記事中、
左記の箇所を訂正します。

(1)5面3段21行目、

「立川市の「懇談」の相手は基地担当の企画政策課長などで、なかなか懇談の域を出ません。」は、全文削除する。

(2)5面4段13行目、

「それでもこの間の「懇談」の結果、立川市ではいろいろな基地関連情報をこれまでよりも早く、広く議員(会派代表)に報告するようになるなどの前進もつづられています。」は全文削除する。

(3)8面最下段14行目、

「しかし昭島や立川は基地対策の委員会が開かれなく全議員には情報が伝達されないうえだ。」は、「や立川」を削除する。以上

アンケートに 寄せられた意見



7月に、考える会が会員のみなさんに出したアンケートに対して、次の10人の方々から回答がありました。

今回は、そのうちの第1問「集团的自衛権容認の閣議決定について」をご紹介します。

① 新田紘一さん

(昭島・拝島)

安倍の思惑としては、いつか米軍に出て行かせ、すべての米軍基地に自衛隊を駐屯させる気だろう(自衛隊基地になれば騒音、墜落問題の対処は？周辺住民の云うことを聞くのか?)

② 高橋行雄さん

(昭島・拝島)

安倍政権の「閣議決定」は立憲主義を否定するナチス・ドイツのヒトラーを想

起するクーデターの手法だ。

これは、2012年12月の総選挙と2013年7月の参院選で、自公が虚構の多数を取って、国会は疑似翼賛体制になったものの、正当な手続で明文改憲することは困難と見て、あせった結果の脱法行為である。

彼らは「核の傘」論同様に、抑止論を喧伝し「限定的」などとごまかしているが、日米安保を「殺し、殺される」「血の同盟」にしようとするものだ。

この「閣議決定」にあわせるかのよう、横田へのオスプレイの飛来が強行され、配備の常態化を狙っているようにみえる。

日本がいつそう、主権国家としての体をなさない国になり、自ら進んで「アメリカとともに海外で戦争をする国」への道を選ぶ亡国政治の安倍政権打倒は焦眉のたたかいである。

③ 川根 進さん

(小平・津田)

約70年守り続けた「戦争をしない国」をひっくり

返し「戦争をする国」にする「閣議決定」は、一内閣の一存でできる政令で、上位法の憲法を改悪する違法ばかりでなく、内容も悪法である。

憲法前文・憲法九条に違反し、許されない。撤回すべきである。

これは、根底に、政府がアメリカに軍事協力を約束した1954年のMSA協定と安保条約があるからだ。

④ 松尾 洋さん

(昭島・緑町)

首都東京にこのような大きな米軍基地が存在すること自体許せないこと。そのうえに、集团的自衛権容認で戦争に参加することになると、真っ先に攻撃の標的にされるに違いない。このような危険な基地は一日も早くなくさなければならぬと思う。

⑤ 松井登志子さん

(昭島・美堀町)

これから自衛隊と米軍が公然と軍事訓練することが多くなることが予想され、現在以上に、戦闘機の廃ガ

スによる環境汚染などが心配される。

今は、基地はゲリラにねらわれる時代、特に中枢基地である横田はねらわれ、爆発事故など考えると、黙っていられない気がする。

⑥ 上原英一さん

(昭島・美堀町)

最近、騒音がひどい。安倍の集团的自衛権容認の「閣議決定」のせいではなにか！ オスプレイの購入なんかとんでもない。反対！

⑦ 大竹雄二さん

(昭島・美堀町)

戦前の状況、特にヒトラーが力をもってきた頃のドイツと似て、民主主義が破壊され、戦争へつき進む危機を感じる。

⑧ 下村三郎さん

(昭島・玉川町)

飛行回数(騒音)の増加、パラシュート降下や編隊飛行訓練の急増、自衛隊航空総隊の増強、安倍政権の解積改憲(戦争国家づくり)、オスプレイ飛来を、集团的自衛権容認と連動する動き

とみるべき。

横田の役割、機能は、明らかに変化・強化、実戦基地化されつつある。

いま、朝鮮、ベトナム、湾岸戦争などで、横田基地がどういう役割をしたか考えて見よう。

⑨ 橋本左内さん

(昭島・宮沢町)

飛行差し止め請求の訴訟は大切だが、それだけではこれまでの結果の繰り返しに終わると思う。地位協定が憲法をさしおいて横行しているのだから、これを追求する憲法裁判で勝つ以外に目的を達成することはできない。内藤 功弁護士著 32頁参照！

かつて例会で提案したように、人格権に立脚して、堂々と闘うべきであると考えている。

⑩ 米山義盛さん

(長野・下伊那郡)

戦争のための国づくりはまったくひどいこと。安倍政権は一刻も早く退陣させなければいけないと思っている。

8・30討論会報告 横田基地の現状 について

【問題提起】後藤太刀味さん

8月30日の討論会には、16名が参加。世話人の後藤太刀味さんから、米軍再編と日米合意とのもとの自衛隊についての問題提起と、同じく世話人でもあり横田基地の撤去を求める西多摩の会の事務局長の窪田さんからは横田基地の実態が、今どうなっているのか報告頂きました。

それをうけて、参加者全体で自由討論を行いました。軍事優先の政府に対して思うこと、自分の体験の中から感じることを、今後の運動はどうあるべきかなど、真剣に話が進み、短い時間でしたが有意義な討論会になりました。紙面の都合で後藤さんの問題提起の要旨のみご報告

します。

後藤さんからの問題提起
米軍の再編強化は世界的規模で行った。そして米軍と自衛隊の軍事一体化の促進と日米軍事同盟の拡大強化。

米軍再編による日米合意の2005年10月以降急速に問題が進んできた。その翌年2006年に日米共同統合運用調整所が横田におかれて、本格的な合同演習が始まった。2012年には、自衛隊の航空総隊司令部が横田に移転し、「航空自衛隊横田基地」が米軍基



地内に誕生。そして今年8月航空自衛隊航空戦術教導団の司令部が横田におかれたことは大きな問題である。2014年度の防衛予算は、この航空戦術教導団の新設が明記されている。

その創設は、敵基地攻撃作戦を遂行できるように、各分野の課題を検証し、新規に導入する装備体系の構築も含めて、攻撃能力の研究に着手するためである。航空戦術教導団は、航空総隊司令官のもとにおかれ、団司令部は約100人(横田に配置)、団全体では千人、かなりの規模の部隊である。

自衛隊法が6月に改定になって、それに基づいて作られている。海兵隊のような殴り込み部隊を意識したものではないかと思う。

横田基地では、2012年以降の度々の大規模なパラシュート降下訓練や編隊飛行訓練が行われている。更に基地内に強襲着陸用滑走路が設置された。

これは草木・釘・土・砂利・サンゴ・アスファルト・コンクリート、その他何でも砕いて敷き、そこに着陸する訓練を行う。

横田のC130輸送機は、編隊訓練も行い、群馬あたりでは低空飛行訓練もされている。そして遂に今年7月からオスプレイがやってきた。

日米同盟が強化する中で、海外で戦争する自衛隊作りが急速に展開されてきた。日本の自衛隊の特徴は、他国の軍隊とは全く違う、特殊な「対米従属」の軍隊だということ。その対米従属の度合いが一層深化している点をしっかりとつかんでおかないと話がわからない。

訓練はすべてアメリカのマニュアルで行っていると。自衛隊の戦法はすべてアメリカの模倣。実態はどんどん進んで、いつでもアメリカと一緒に戦争できる国になってい

るのだということが明確になっている。

自衛隊の装備は、すべてアメリカ製。

防衛予算では、F35ステルス戦闘機は、42機購入(1機160億円)、オスプレイは17機(1機90億円)、水陸両用車は52両(1両8億円)を購入するとしている。

(報告 井出)

沖縄とともに声を上げよう
10・25横田基地も
いらぬ市民交流集会
(牛浜駅徒歩5分)

於：福生市民会館

★午後の部 午後1時

今年、午後のメインステージは、横田基地や砂川事件に詳しい内藤功氏(弁護士)に、横田基地の実態を話して頂きます。**和太鼓の演奏もあり!**

★午前の部 10時

沖縄・辺野古の闘い、(14年8月)と横田基地のDVD上映も!
★午前10時と11時の基地巡りバスは、事前申し込みが必要です。
申込み先 090 (5502) 6194 渡辺